

NPhA

隔月刊誌
[エヌファ]

Special Feature

NPhA20周年記念式典を盛大に開催

三木田会長「社会・地域に 貢献する薬局を目指す」

武見敬三厚労大臣はじめ
多数の来賓・会員等340人が出席



Visiting

〔訪問シリーズ〕在宅医療特化型薬局

施設在宅業務を集約し
高度サービスを提供

さくら薬局 戸塚在宅センター（神奈川県横浜市）

Round Table Discussion

〔座談会〕薬局・薬剤師の未来を語る

業界団体が連携し 薬剤師職能・存在意義の 訴求を



飯島裕也氏

徳吉淳一氏

杉本修康氏

有限会社徳吉薬局
代表取締役社長
徳吉 淳一 氏

株式会社わかば
代表取締役社長
杉本 修康 氏

一般社団法人上田薬剤師会 常務理事
有限会社飯島 代表取締役社長
飯島 裕也 氏

4 Special Feature

特集 NPhA20周年記念式典を5月15日、盛大に開催
三木田慎也会長

「社会・地域に貢献する薬局を目指す」

8 NPhA 令和6年度定時総会を開催

三木田会長を再任、副会長に柄澤忍・松野英子氏就任

9 Round Table Discussion

座談会 薬局・薬剤師の未来を語る

業界団体が連携し薬剤師職能・存在意義の訴求を

有限会社徳吉薬局(鳥取県) 株式会社わかば(神奈川県) 一般社団法人上田薬剤師会 常務理事
代表取締役社長 徳吉 淳一氏 代表取締役社長 杉本 修康氏 有限会社飯島(長野県) 代表取締役社長 飯島 裕也氏

16 Visiting

訪問シリーズ 「在宅医療特化型薬局」 さくら薬局 戸塚在宅センター(神奈川県)

施設在宅業務を集約し高度サービスを提供

クラフト株式会社 在宅推進部 部長 在宅推進部 課長代理 第3営業部 課長 第3営業部 マネージャー
浅井 誠也氏 柏手 一臣氏 牧野 円氏 齋藤 高太氏



協会ロゴマークの由来

協会ロゴマークは、私たちの仕事である調剤業務に古くより使用されている重要な器具・薬匙(スパーテル)を基本にあしらい、さらに日本保険薬局協会の英名 Nippon Pharmacy Association の略である NPhA を薬匙の上に広げて重ね、空を翔ける鳥のようにイメージしました。今後、日本保険薬局協会が大きく羽ばたき成長するよう、希望を込めて作成されています。

好評連載

15 Partnership

薬剤師との連携を目指して

キョーワ薬局株式会社 エリアリーダー キョーワ薬局弥富北店(愛知県) 佐藤 美和子氏

19 Local Specialty

隠れたわが郷土料理(広島県) 有限会社山陽堂 代表取締役 赤木 寛紀氏

20 Workshop

NPhA ワークショップ 開催レポート

22 Committee

NPhA 委員会 Act 人材育成検討委員会 藤井 江美委員長に活動内容を聞く

24 Beyond The Sea

米国&英国からのレポート 「米国&英国で薬剤師になるには」

アメリカ 国試だけでなく就労する州の薬事法試験の突破が必要 大野 真理子氏
イギリス 1年間の免許変換コース履修・実務実習を経て国試へ 國分 麻衣子氏

28 At The Top

地域のトップランナー 株式会社パワーファーマシー(栃木県)

30 Diary

薬局管理栄養士ダイアリー

アポクリート株式会社
アイランド薬局 大玉店(福島県) 阿曾 瑞希氏

32 NPhA 新会員紹介

33 ファーマシーセミナーオンライン研修開催案内/認知症研修認定薬剤師制度 研修会・認定試験スケジュール

34 編集後記

日本保険薬局協会（NPhA）は5月15日、都内で20周年記念式典を開催、行政はじめ国会議員、関係団体、会員ら340人が出席しました。同日、開かれた定時総会で続投が決まった三木田慎也会長は、20周年を迎えられたことは行政・会員の支援の賜物と謝意を表した上で、「社会・地域の役に立てる薬局の実現を目指す」と決意を語りました。来賓として登壇した厚生労働大臣・武見敬三氏は「地域に寄り添った活躍を期待している」と薬局・薬剤師にエールを送りました。

一般社団法人 日本保険薬局協会 20周年記念式典



340人余りが出席したNPhA20周年記念式典

20th Anniversary Ceremony

〔 NPhA20周年記念式典を
5月15日、盛大に開催 〕

三木田会長 「社会・地域に
貢献する薬局を目指す」

武見敬三厚労大臣はじめ
多数の来賓・会員等340人が出席



三木田慎也会長

Salutation

式典挨拶

野々村彩乃氏の歌声が会場を華やかに彩った



Sing solo

独唱

初代会長・今川美明氏らに 特別功労賞

2004年に設立され、今年20周年を迎えたNPhAは5月15日、都内のホテルで記念式典を開催しました。式典は3部構成で行われ、第1部はソプラノ歌手・野々村彩乃氏の独唱、第2部は式典及び特別功労賞表彰、第3部は懇親会の順で進められました。

冒頭、挨拶に立った三木田慎也会長は、設立20年を経た今、NPhAの会員薬局数が、全薬局数の概ね三分の一を占めている現状を念頭に、「これも、ひとえに行政のご支援、会員の協力があったとのこと」と感謝を述べた上で、次のように今後の抱負を語りました。

「保険薬局を取り巻く環境は人口減少、医療DXの進展など大きく変化している。また昨今は、24時間・

休日夜間の対応も求められている。単独では解決することが難しい課題も、皆が協力することで解決できる。社会・地域に役に立てる薬局を実現していくことが、NPhAに求められていると考えている」

第1部では、ソプラノ歌手・野々村彩乃氏が華やかな声を響かせました。オペラ「ラ・ボエーム」から「私が街を歩けば」のほか、「からたちの花」、「夏は来ぬ」など日本歌曲も披露し会場を魅了しました。

第2部では、厚生労働大臣・武見敬三氏のほか内閣府特命担当大臣・自見英子氏、日本薬剤師会会長（当時）・山本信夫氏など多くの来賓が祝辞を述べました。武見敬三氏は、「この20年、医薬分業が進展する中、薬剤師への研修等の取り組みを

●特別功労賞受賞者

今川 美明氏	日本保険薬局協会	設立発起人	初代会長
三津原 博氏	日本保険薬局協会	設立発起人	第2代会長
岩崎 壽毅氏	日本保険薬局協会	設立発起人	第3代会長
中村 勝氏	日本保険薬局協会		第4代会長
森 要氏	日本保険薬局協会	設立発起人	
柏木 實氏	日本保険薬局協会	設立発起人	
石田 健二氏	日本保険薬局協会	設立発起人	
増倉 宗基氏	日本保険薬局協会	賛助会員拡大に貢献	

通じ医薬品の適正使用の推進や、医療提供体制の確保などに日頃からご尽力いただき心から感謝申し上げます。特に令和六年能登半島地震の際には、避難所での調剤業務等のご支援をいただき、厚く御礼を申し上げます。今後とも地域に寄り添ってご活躍いただくことを期待する」と挨拶しました。

なお、歴代会長など協会に著しい功績を残した方々を顕彰する特別功労賞が、初代会長・今川美明氏など8人に贈られました。

座談会 薬局・薬剤師の未来を語る

業界団体が連携し 薬剤師職能・存在意義の 訴求を

薬剤師の業務量を減らし 効率よく運営できる規制改革が望まれる

日本医師会は1974年に、医薬分業を5年後に実施したいとの方針を表明。この年2月に診療報酬改定で処方箋料を6点から10点、10月には10点から50点へ大幅に引き上げ、医薬分業へと大きく舵を切ったことから「医薬分業元年」と言われ、これを機に徐々にだが処方箋発行枚数が増加に転じました。それから半世紀が過ぎ院外処方箋発行率は80%に達し、近年、ICT

の活用など医療DXの進展、入院から在宅医療のシフトなど薬局・薬剤師をめぐる環境は大きく変化し、求められる業務も質的に変化しています。既に2040年問題も目の前のこととなり、日本の人口が激減していく中で、薬局・薬剤師は何に取り組むべきなのか。厳しい経営環境のなか次代を担う若手経営者3氏に、将来への展望を語っていただきました。(2024年5月10日収録)

左から飯島氏、徳吉氏、杉本氏

出席者 (発言順)

有限会社徳吉薬局 (鳥取県)
代表取締役社長

徳吉 淳一氏

Junichi Tokuyoshi

株式会社わかば (神奈川県)
代表取締役社長

杉本 修康氏

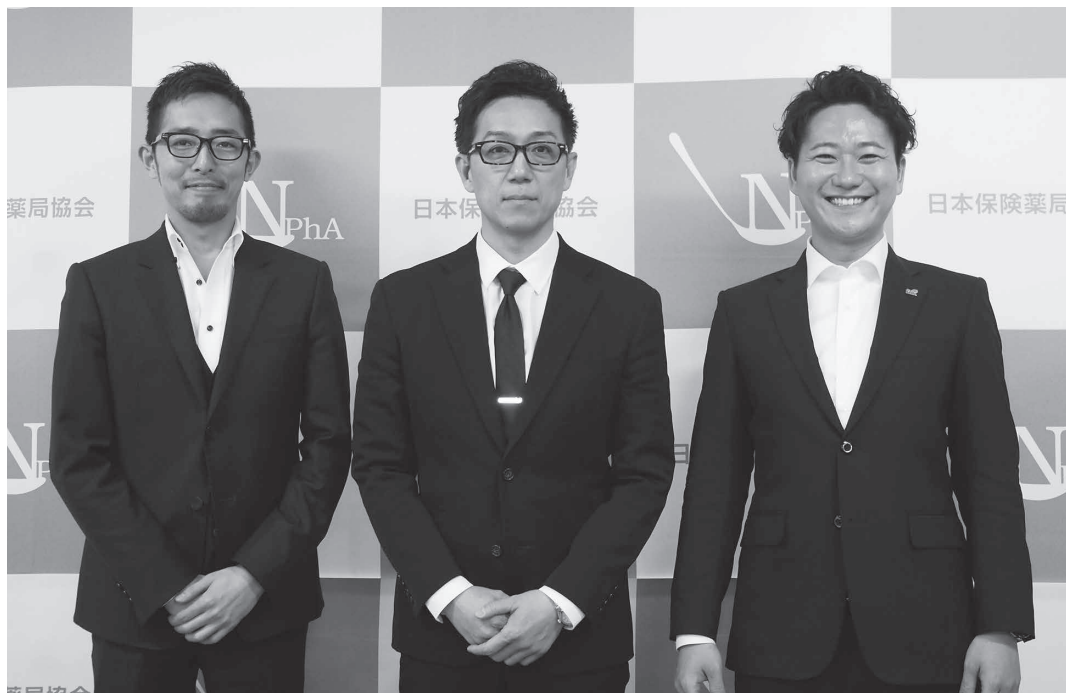
Nobuyasu Sugimoto

一般社団法人上田薬剤師会 常務理事
有限会社飯島 (長野県)

代表取締役社長

飯島 裕也氏

Hiroya Iijima



医薬分業が患者・国民のヘルスリテラシー向上にも貢献

—1974年の医薬分業元年から50年経ちます。

皆さんは、どのように認識されていますか。

徳吉 徳吉薬局の設立は分業元年から6年後の1980年で、私が3代目になります。薬剤師になってから23年間で一番印象的なのは、薬局・薬剤師の業務が大幅に変わった。課せられた責務、業務範囲がすごく大きく広がったことです。率直に言って、社会が薬剤師に期待してるのだと、前向きに捉えています。

杉本 私は医薬分業により薬剤師の専門性をより発揮できる世の中になったと思います。医師の医薬品選択の自由度が上がり、薬剤師によるレビューがしやすく



徳吉淳一氏

なり、適正使用が進展したと捉えています。患者さんはわれわれ薬剤師と話す機会が増え、薬物療法への不安が払拭され、服薬する上で重要な役割を薬剤師が果たせる環境が整ってきた。国民の病識や薬識などヘルスリテラシー向上にも寄与してきたと思います。別の観点では、医療保険財政の適正化という面でも必要だったのかもしれない。政府にとって、薬価基準にも介入しやすくなり財政的にコントロールしやすくなったのではないのでしょうか。

飯島 個人的には、もともと経済分業で薬剤師が職能団体として勝ち取ったものではないと思っています。とはいえ50年間にわたり、医薬分業が維持できたのは先輩薬剤師の先生方のご尽力のお陰だと認識し

ています。ただ、今後も維持していくためには、薬局・薬剤師が患者さんや地域住民、国民に対して、その社会的価値をどのように見せていくかが重要で、いまが正念場だと認識しています。

本来的には薬剤師が「国民のための薬局」の方向性を示すべき

—2015年頃からは薬局のあり方が問われ、国は「患者のための薬局ビジョン」を作成しました。その後、かかりつけ薬剤師や地域支援体制加算などの調剤報酬改定や薬機法改正もされました。この10年を、どのように捉えていますか。

杉本 薬局ビジョンが公表されて以降は、政府主導により「こういう薬局を目指しなさい」という、「あるべき薬局論」が強く打ち出され、薬局の立ち位置は明確になりましたが、その圧力が強くなりすぎたようにも感じます。医療過疎地域や飽和地域との格差が広がるにつれ、各地域のローカルリソースを反映させた地域医療の体制づくりを行い、効率的かつ効果的な薬局にバージョンアップしていく上で、一律のあるべき論に寄せていくことは足枷になっている印象を持ちます。

徳吉 最初に薬局ビジョンを見て思ったことは、私たち薬剤師がダメだから、国は仕方なく腰を上げて指針、道筋を作ったのだらうということでした。その善し悪しは別に、調剤報酬上では地域支援体制加算も新設され、一定の数値目標をクリアすれば評価が得られるなど、薬局ビジョンの達成に向け、国が完全にルールを敷いています。皆、そのルールに沿って何とか行こうという構図です。薬剤師発信ではないところが情けないなと思っています。自身の会社を考えると過去10年も変わらず努力してきましたが、薬局ビジョンに照らし未だできていないことはあります。

飯島 極論を言えば、国民のための薬局になっていないから、国が定めるしかなかったのだらうと思います。この50年間、処方箋応需に傾倒しすぎ、得られた収益が国民のためになっていない。つまり、OTC医薬品や衛生材料、医療雑貨の常備と提供、公衆衛生や健康増進への寄与にも十分な投資・行動がされていないと思います。例えば、夜間・休日対応への体制整備もできていない地域は少なくありません。

施設在宅業務を集約し 高度サービスを提供

今後5年間で関東・関西等ドミナント地域に40店舗展開へ

クラフト株式会社

在宅推進部 部長 **浅井 誠也氏**

在宅推進部 課長代理 **柏手 一臣氏**

第3営業部 課長 **牧野 円氏**

第3営業部 マネージャー **齋藤 高太氏**



聞き手

日本保険薬局協会
前専務理事

吉野 隆之氏

昨年12月、クラフトは神奈川県横浜市に「さくら薬局 戸塚在宅センター」を開設しました。続けて今年2月、都内に「昭島在宅センター」を開設、施設在宅に特化した「在宅センター」の多店舗化に踏み出しました。今後5年間で、関東や関西など同社がドミナント出店する地域に40店舗を展開する計画です。

現在、戸塚在宅センターはグループホームや老人ホームなど10施設、患者さん450人余りの処方箋を応需。薬剤師が訪問医と同行することで良質な患者サービスを実現、麻薬や無菌調剤など高度サービスを提供しています。
(2024年4月24日取材)

施設だけでなく一部の個人在宅・外来にも対応

——在宅医療に対する全社的な取組体制を、まずはお聞かせください。

浅井 さくら薬局グループでは、在宅医療拠点として「在宅センター」と「在宅医療チーム」を配置しています。「在宅センター」はグループホームや有料老人ホーム、サ高住など施設在宅を主に行う一方、「在宅医療チーム」は主に個人在宅を担当しています。在宅センターの1号店がここ戸塚センターで、2号店として今年2月、東京都昭島市に「さくら薬局 昭島在宅センター」を開設しました。また、「在宅医療チーム」は北海道札幌市や東京都八王子市など全国6カ所に設置しています。

——施設在宅に特化した在宅センターを開設した狙いを、どのように考えていますか。

浅井 在宅医療への取り組みは、地域の医療ニーズに応えるため、全ての薬局で実施することが基本的な方針です。ただ、その一方で、当センターのような施設在宅専門の薬局を設けることで作業効率の向上が可能になりますので、麻薬の提供とか無菌調剤など高度なサービスが提供できるようになります。まず、それが第1点です。また、薬剤師の教育拠点としての意義です。これからの展開になりますが、他薬局から当在宅センターに薬剤師を送り込んで、在宅医療に関する教育を行う拠点として活用していくつもりです。更に、医療機関等に対しては、在宅医療に積極的に取り組んでいる当社の企業PRにもなると考えています。

——本センターの概要をお聞かせください。



浅井 誠也氏